

令和 7 年度
広島市立美鈴が丘高等学校
教育課程
年間授業計画
－ シラバス －



第 3 学年

年間指導計画表(シラバス)

科目名	論理国語	単位数	2
		学年等	第3学年(文理共通)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	○教科書「精選 論理国語」(東京書籍) ○副教材「文学国語セレクション」(東京書籍) 「豊かな語彙力をはぐくむ新しい常用漢字」(数研出版) 「LT 現代文 3 大学入学共通テスト対応版」(浜島書店) 「入試頻出セレクション 漢字プラス語彙 2040」(尚文出版) 「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 2026 共通テスト 現代文」(ランズ)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	実社会において理解したり表現したりするために必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的に考える力や批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価点	360点	360点	360点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	(副教材)「こころ」 (環境)「環境問題と孤立した個人」 (情報)「おじいさんのランプ」 (言語)「混じり合う言葉」	・定期考査 ・春課題テスト ・小テスト 等	・定期考査 ・春課題テスト 等	・週末課題 ・授業態度 ・ノート ・授業課題 ・小テスト 等
	評価点	180 点	180 点	180 点
後期	(副教材)「檸檬」 (哲学)「原始社会像の真実」 (副教材)「文学の未来」 (副教材)「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 2026 共通テスト 現代文」	・定期考査 ・夏課題テスト ・小テスト 等	・定期考査 ・夏課題テスト 等	・週末課題 ・授業態度 ・ノート ・授業課題 ・小テスト 等
	評価点	180 点	180 点	180 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	●春課題テスト (副教材)「こころ」 叙述に即して人物の心情を読み取り、近代の小説世界を想像力豊かに読み味わう。	12
	5	(環境)「環境問題と孤立した個人」 取り上げられる話題をたどりながら近代の自然観を捉え、環境問題についての考えを深める。	6
	6	●第1回考査 (情報)「おじいさんのランプ」	5
	7	話題と主張の関係に着目して読み、時代とともに変わっていく本の在り方について考える。 (言語)「混じり合う言葉」	6
	8	筆者の体験と考察の関係に着目して読み、言語に対する見方を広げる。	
		●夏課題考査	7
	9	(副教材)「檸檬」 登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。 ●第2回考査	
後期	10	(哲学)「原始社会像の真実」	
	11	時間的に異なる世界を題材とした評論を読み、社会の変遷を捉える見方を身につける。	8
		(副教材)「文学の未来」 本文中における引用の役割を押さえて筆者の主張を理解し、文学の意義について理解を深める。	6
	12	(副教材)「共通テスト対策 実力養成重要問題演習 2026 共通テスト現代文」 ●第3回考査	2
	1 2	(副教材)「共通テスト対策 実力養成重要問題演習 2026 共通テスト現代文」	18

5 その他

「論理国語」は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目的としています。互いの考えを尊重しながら、高め合う姿勢で授業に臨んでください。

○前日までに意味調べや本文読みなどの予習を行い、小テストの学習を行って授業に臨んでください。

○授業中は、積極的に授業に取り組み、ノートはもちろん、与えられた課題に真摯に取り組んでください。

○授業の内容に関して疑問に思ったこと、わからなかったことは積極的に質問しましょう。授業時間以外に質問に来ててもかまいません。

○学んだことを定着させるには、復習が肝要です。教科書やノート等で学習内容を整理・確認しましょう。

○週末課題の問題集は指示を守って真摯に取り組み、期限内に提出してください。未提出や不備のものは指導します。

○現代文を理解したり、話し合ったり、文章を書いたりするためには、歴史や社会についての知識・理解が不可欠です。日ごろから新聞や雑誌を読み、情報を収集・整理しておきましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	古典探究	単位数	2
		学年等	第3学年・理科型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	○教科書「精選古典探究」(大修館書店) ○副教材「完全傍訳やさしくくわしい古典文法 三訂版」(尚文出版) 「記入してわかるやさしくくわしい古典文法ノート 修訂版」(尚文出版) 「読んで見て覚える重要古文単語315 三訂版」(桐原書店) 「新版 古文助動詞・漢文句法 マスターノート」(数研出版) 「新版 漢文句法マスターノート」(数研出版) 「基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版」(大修館書店) 「錬成古典 大学入学共通テスト対策 新装二版」(啓隆社) 「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 2026 共通テスト 古典」(ラーンズ) 「旺文社古語辞典 第10版 増補版」(旺文社) 「新漢語林 第2版」(大修館書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価点	360点	360点	360点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	(日記)『蜻蛉日記』『うつろひたる菊』 (史伝)『史記』『管鮑の交わり』 (物語)『大鏡』『三舟の才』 (俳諧)『去来抄』『行く春を』	・定期考査 ・春課題テスト ・小テスト 等	・定期考査 ・春課題テスト 等	・週末課題 ・授業態度 ・ノート ・授業課題 等
	評価点	180点	180点	180点

後期	(軍記)『平家物語』『忠度の都落ち』 (文章)『蘇軾』『医薬談笑』 (問題演習)	・定期考査 ・夏課題テスト ・小テスト 等	・定期考査 ・夏課題テスト 等	・週末課題 ・授業態度 ・ノート ・授業課題 等
	評価点	180点	180点	180点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	●春課題テスト	
	5	(日記)『蜻蛉日記』 ・「うつろひたる菊」→文章の展開をおさえ、作者の心情を読み取ることができる。 和歌の修辞法、贈答歌の作法など理解する。	9
	6	(史伝)『史記』 ・「管鮑の交わり」→有名な逸話について、興味を持ち考え方を広げようとしている。 語句や句法の確認を行い、適当な口語訳を行うことができる。	9
	7	●第1回考査 (物語)『大鏡』 ・「三舟の才」→歴史に残された人々の姿を読み取ることができる。 敬語や文法などを理解できる。	10
	8	(俳諧)『去来抄』 ・「行く春を」→発言者の意見を理解し、表現を比較するおもしろさを味わう。	8
	9	俳諧における表現上の技巧や工夫について理解する。	
		●夏課題テスト ●第2回考査	
後期	10	(軍記)『平家物語』	8
	11	「忠度の都落ち」→登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解する。	
	12	(文章)『蘇軾』 「医薬談笑」→登場人物の会話のやり取りを正しく読み取ることができる。	8
	1	●第3回考査	
	2	(問題演習)「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 2026 共通テスト 古典」	18

5 その他

【授業で扱う教材について】

●教材に関しては、原則として文科型と同じものを扱う予定です。単位数が異なることを考慮し、取り扱いには軽重をつけます。

●理科型は、実践的な内容に主眼をおいて展開します。

【授業外に何をすればよいか】

●①古文単語、②文法知識、③古典常識。これが古典読解のための3本柱です(漢文の場合はこれに句法知識が加わります)。問題が解けない場合、この①～③に課題がある場合がほとんどです。予復習や問題演習を行うときには、これらのうち何が分からないのか、常に考えながら取り組みましょう。分からないことを自覚し、その場所を把握すること。それが学びの羅針盤になります。

●3年生は、模擬試験を受ける機会も多くなります。受験後には詳細な解説が配付されますので、これをしっかり読み込むことが重要です。間違いを認識し、その理由を確認することで以降の改善に繋がります。週末課題についても同様に、解説書の読み込みに時間をかけましょう。

【なぜ古典を学ぶのか】

皆さんの中には「古典は受験科目ではないから学習しなくていい」という人もいるでしょう。また「この国際化時代に、古典なんて不要だ」と感じている人もいるかもしれません。古典の学習について、昔から言われてきた疑問です。古典は、何のために学習するのでしょうか？

高校生である皆さんは、色々なことについて「自分の考え」を持っていることでしょう。人間関係、恋愛、自然、時間、生と死、ありとあらゆる価値観。しかし、その中で「自分で作り上げた考え」はどれくらいあるのでしょうか。ほとんどすべての思いや考え方は「自分のオリジナル」ではなく、何かの影響を受けているはずです。

自分が属する文化と無縁で生きていられる人は、この世に存在しません。それはつまり、あらゆる「自分の考え」の中に、私たちの生活や歴史や祖先が、日本という「文化」が関わっているということです。そして、その文化は、千年以上の時をかけて創り上げられてきたものです。その歴史を持つ文化を学び、理解すること。それは現在の自分と社会を知り、未来に考えをはせることにつながります。皆さんが古典を読む意味、価値はそこにあります。

国際化社会が声高に叫ばれる時代だからこそ、自国の歴史や文化についてしっかりとした考えを語れることが重要です。外国語が操れても、自分のルーツや自国の文化について語るべきものを持たない人は、真の意味での国際人と言えないのではないのでしょうか。

地に足をつけて将来を生きるために、また単なる教養としても古典の学習は必要です。その意味で、入試での要不要などたいした問題ではないのです。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	古典探究	単位数	3
		学年等	第3学年・文科型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	○教科書「精選古典探究」(大修館書店) ○副教材「完全傍訳やさしくくわしい古典文法 三訂版」(尚文出版) 「記入してわかるやさしくくわしい古典文法ノート 修訂版」(尚文出版) 「読んで見て覚える重要古文単語315 三訂版」(桐原書店) 「新版 古文助動詞・漢文句法 マスターノート」(数研出版) 「新版 漢文句法マスターノート」(数研出版) 「基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版」(大修館書店) 「錬成古典 大学入学テスト対策 新装二版」(尚文出版) 「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 2026 共通テスト 古典」(ランズ) 「旺文社古語辞典 第10版 増補版」(旺文社) 「新漢語林 第2版」(大修館書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価点	360点	360点	360点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	(日記)『蜻蛉日記』『うつろひたる菊』 (史伝)『史記』『管鮑の交わり』 (物語)『大鏡』『三舟の才』 (俳諧)『去来抄』『行く春を』	・定期考査 ・春課題テスト ・小テスト 等	・定期考査 ・春課題テスト 等	・週末課題 ・授業態度 ・ノート ・授業課題 等
	評価点	180点	180点	180点

後期	(文章)『聊齋志異』『酒虫』 (軍記)『平家物語』『忠度の都落ち』 (文章)『蘇軾』『医薬談笑』 (問題演習)	・定期考査 ・夏課題テスト ・小テスト 等	・定期考査 ・夏課題テスト 等	・週末課題 ・授業態度 ・ノート ・授業課題 等
	評価点	180点	180点	180点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	●春課題テスト (日記)『蜻蛉日記』 ・「うつろひたる菊」→文章の展開をおさえ、作者の心情を読み取ることができる。 和歌の修辞法、贈答歌の作法など理解する。	9
	5	(史伝)『史記』 ・「管鮑の交わり」→有名な逸話について、興味を持ち考え方を広げようとしている。 語句や句法の確認を行い、適当な口語訳を行うことができる。	8
	6	(物語)『大鏡』 ・「三舟の才」→歴史に残された人々の姿を読み取ることができる。 敬語や文法などを理解できる。	10
	7	●第1回考査 (俳諧)『去来抄』 「行く春を」→発言者の意見を理解し、表現を比較するおもしろさを味わう。 俳諧における表現上の技巧や工夫について理解する。	8
	8	●夏課題テスト (文章)『聊齋志異』 「酒虫」→世界観を読み味わうことができる。	7
	9	語句や句法の確認を行い、適当な口語訳を行うことができる。 (軍記)『平家物語』 「忠度の都落ち」→登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解する。	12
		●第2回考査	
	10	(文章)『蘇軾』 「医薬談笑」→登場人物の会話のやり取りを正しく読み取ることができる。	10
	11	(問題演習)「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 2026 共通テスト 古典」 ●第3回考査 (問題演習)「共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 2026 共通テスト 古典」	14
後期	12		27
	1		
	2		

5 その他

【授業で扱う教材について】 ●教材に関しては、原則として理科型と同じものを扱う予定です。単位数が異なることを考慮し、取り扱いには軽重をつけます。 ●文科型は、実践的な内容のみならず文学的な読みの深まりを目指します。 【授業外に何をすればよいか】 ●①古文単語、②文法知識、③古典常識。これが古典読解のための3本柱です(漢文の場合はこれに句法知識が加わりま
--

ち何が分からないのか、常に考えながら取り組みましょう。分からないことを自覚し、その場所を把握すること。それが学びの羅針盤になります。

- 3年生は、模擬試験を受ける機会も多くなります。受験後には詳細な解説が配付されますので、これをしっかり読み込むことが重要です。間違いを認識し、その理由を確認することで以降の改善に繋がります。週末課題についても同様に、解説書の読み込みに時間をかけましょう。

【なぜ古典を学ぶのか】

皆さんの中には「古典は受験科目ではないから学習しなくていい」という人もいるでしょう。また「この国際化時代に、古典なんて不要だ」と感じている人もいるかもしれません。古典の学習について、昔から言われてきた疑問です。古典は、何のために学習するのでしょうか？

高校生である皆さんは、色々なことについて「自分の考え」を持っていることでしょう。人間関係、恋愛、自然、時間、生と死、ありとあらゆる価値観。しかし、その中で「自分で作り上げた考え」はどれくらいあるのでしょうか。ほとんどすべての思いや考え方は「自分のオリジナル」ではなく、何かの影響を受けているはずです。

自分が属する文化と無縁で生きていられる人は、この世に存在しません。それはつまり、あらゆる「自分の考え」の中に、私たちの生活や歴史や祖先が、日本という「文化」が関わっているということです。そして、その文化は、千年以上の時をかけて創り上げられてきたものです。その歴史を持つ文化を学び、理解すること。それは現在の自分と社会を知り、未来に考えをはせることにつながります。皆さんが古典を読む意味、価値はそこにあります。

国際化社会が声高に叫ばれる時代だからこそ、自国の歴史や文化についてしっかりとした考えを語れることが重要です。外国語が操れても、自分のルーツや自国の文化について語るべきものを持たない人は、真の意味での国際人と言えないのではないのでしょうか。

地に足をつけて将来を生きるために、また単なる教養としても古典の学習は必要です。その意味で、入試での要不要などたいした問題ではないのです。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	地理探究	単位数	4単位
		学年等	第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。
使用教科書 副教材等	教科書:『新詳地理探究』(帝国書院) 地図帳:『詳解現代地図 最新版』(二宮書店) 副教材:『新編フォトグラフィア地理図説』(東京法令出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	現代世界の地理的事象について、基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、特色を読み取り図表などさまざまなまとめ方を身に付けている。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて多面的・多角的にとらえることができる。	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、生活している土地に対する関心を持っている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	〔第1部 現代世界の系統地理的考察〕 第4章 人口、村落・都市 第5章 生活文化、民族・宗教 〔第2部 現代世界の地誌的考察〕 第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代世界の諸地域	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析	・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析
		100点	100点	100点
後期	〔第2部 現代世界の地誌的考察〕 第2章 現代世界の諸地域 〔第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像〕 〔問題演習〕 〔学習のまとめ〕	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析	・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析
		100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期		〔第1部 現代世界の系統地理的考察〕	
	4	第4章 人口、村落・都市	14
	5	第5章 生活文化、民族・宗教	14
		〔第2部 現代世界の地誌的考察〕	
	6	第1章 現代世界の地域区分	2
		第2章 現代世界の諸地域	
		1節 中国	6
		----- 第1回考査	
		第2章 現代世界の諸地域	
		2節 韓国	4
	7	3節 ASEAN 諸国、4節 南アジア	12
	8	5節 西アジア、	4
	9	6節 アフリカ、7節 ヨーロッパ、	16
		----- 第2回考査	
後期		〔第2部 現代世界の地誌的考察(つづき)〕	
		第2章 現代世界の諸地域	
	10	8節 ロシアとその周辺 9節 アングロアメリカ、	14
	11	10節 ラテンアメリカ、11節 オセアニア	10
		〔問題演習〕	8
		----- 第3回考査	
	12	〔問題演習〕	10
	1	〔問題演習〕	10
		〔第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像〕	
		日本地誌：身近な地域を学ぶ	6
	2	〔学習のまとめ〕	10
	3		

5 その他

- ・授業中に図版や資料の読み取りをします。また、作図作業をするので、色鉛筆または3～4色のラインマーカーやサインペンを用意してください。
- ・「地理総合」「地理探究」だけではなく、他の科目で学んだ事柄も結び付けて考えていくことが大切です。雑学が理解の役に立つこともあります。また常に世の中の動きに関心を持ってほしいので、日頃の習慣として新聞を読むことやテレビのニュースを見ることを推奨します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	日本史研究	単位数	4単位
		学年等	第3学年・文型

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	歴史総合、日本史探究で培った社会的な事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。 (1)我が国の歴史の展開に関わる事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に着けるようにする。 (2)我が国の歴史の展開にかかわる事象の意味や意義、伝統と文化の特色等を、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりに着目し、概念を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史的課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明ができる。 (3)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
使用教科書 副教材等	『詳説日本史』(山川出版社)、『図説日本史通覧』(帝国書院) 『新 日本史研究ノート 標準(啓隆社)』、『日本史用語集』(山川出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	我が国の歴史の展開にかかわる事象の意味や意義、伝統と文化の特色等を、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりに着目し、概念を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史的課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明ができる。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	〔第3部 近世〕 第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から近代へ 〔第4部 近現代〕 第12章 近代国家の成立	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシート等の記述分析	・学習課題等 ・ワークシート等の記述分析
	評価点	140点	140点	140点
後期	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 第17章 高度経済成長の時代 第18章 激動する世界と日本	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	60点	60点	60点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第3部 近世〕 第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	10
	5	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造	26
	6	3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	12
	7	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	
	8	第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の成立	12
		探究活動3 歴史資料と近世の展望	
		第1回考査	

	9	第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 ◆-----第2回考査	探究活動4 歴史資料と近代・現代の展望 12
後期	10	第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	8
	11	第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	8
	12	第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	8
		第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 ◆-----第3回考査	8
	1	第17章 高度経済成長の時代 1 55年体制	18
	2	2 経済復興から高度経済成長へ 第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容 探究活動5 現代日本の課題の探究	18

5 その他

- ①授業までに予習を課すことがあります。これは分からない箇所を見つけることで、自分なりの問いをもって授業に参加するためです。
- ②語句や人物をひたすら暗記することが歴史学習ではありません。歴史的なできごとの因果関係、背景と影響、類似と差異、歴史的意義をしっかりと考えながら教科書を読み込みましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	世界史研究	単位数	4単位
		学年等	第3学年・文型

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	近代以降の世界の歴史の大きな枠組みと流れを、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、多面的多角的に考察し表現する活動を通して、歴史的に形成された地球世界の課題を理解し、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 (1) 近代以降の世界の歴史の大きな枠組みと展開にかかわる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 近代以降の世界の歴史の大きな枠組みと展開にかかわる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 (3) 近代以降の世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
使用教科書 副教材等	『詳説世界史』(山川出版社) 『最新世界史図説タペストリー』(帝国書院) 『新 世界史研究ノート 標準』(啓隆社)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	近代以降の世界の歴史の大きな枠組みと展開にかかわる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。	近代以降の世界の歴史の大きな枠組みと展開にかかわる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論することができる。	近代以降の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、その諸事象を我が国や他国、それぞれの文化を尊重し、主体的に解決しようとしている。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	〔第2部 諸地域の交流・再編〕 第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 〔第3部 諸地域の結合・変容〕 第12章 産業革命と環大西洋革命 第13章 イギリスの優位と 欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 第15章 帝国主義とアジアの民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
		100点	100点	100点
後期	第17章 第二次世界大戦と 新しい国際秩序の形成 〔第4部 地域世界の課題〕 第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界 地域世界の課題の探究	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第2部 諸地域の交流・再編〕 第9章 大交易・大交流の時代 探究活動1 1節 アジア交易世界の興隆 2節 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 1節 オスマン帝国とサファヴィー朝 2節 ムガル帝国の興隆 3節 清代の中国と近接諸地域	14
	5	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 探究活動2 1節 ルネサンス 2節 宗教改革 3節 主権国家体制の成立 4節 オランダ・イギリス・フランスの台頭 5節 北欧・東欧の動向 6節 科学革命と啓蒙思想	14
	6	〔第3部 諸地域の結合・変容〕 第12章 産業革命と環大西洋革命 探究活動3 1節 産業革命 2節 アメリカ合衆国の独立と発展 3節 フランス革命とナポレオンの支配	8

		4節 中南米諸国の独立	第1回考査	
		◆-----		
		第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成		
		1節 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動		5
		2節 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成		
		3節 アメリカ合衆国の発展		
		4節 東アジアの激動		
7		第14章 アジア諸地域の動揺		12
		1節 西アジア地域の変容		
		2節 南アジア・東南アジアの植民地化		
		3節 東アジアの激動		
		第15章 帝国主義とアジアの民族運動		
8		1節 第2次産業革命と帝国主義		2
9		2節 列強の世界分割と列強体制の二分化		17
		3節 アジア諸国の変革と民族運動		
		第16章 第一次世界大戦と世界の変容	探究活動4	
		1節 第一次世界大戦とロシア革命		
		2節 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国		
		3節 アジア・アフリカ諸国の変革と民族運動	第2回考査	
		◆-----		
後 期	10	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成		12
		1節 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊		
		2節 第二次世界大戦		
		3節 新しい国際秩序の形成		
	11	〔第4部 地域世界の課題〕	探究活動5	12
		第18章 冷戦と第三世界の台頭		
		1節 冷戦の展開		
		2節 第三世界の台頭とキューバ危機		
		3節 冷戦体制の動揺		
	12	第19章 冷戦の終結と今日の世界		8
		1節 産業構造の変容		
		2節 冷戦の終結		
		3節 今日の世界	第3回考査	
		◆-----		
		4節 現代文明の諸相		8
1		地域世界の課題の探究		14
2				14

5 その他

- 世界史研究の授業では自分の考えをしっかりとった上で、ペア学習やグループ学習を通して学びを深めます。
- 学習課題や振り返りの提出は ICT 機器を活用し、指定された書面もしくは Classroom 内で行います。
- 探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説や検証計画を立て、考察をグループで行うことを通して、多面的・多角的に探究する力を育成します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	政治・経済	単位数	4単位
		学年等	3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
使用教科書 副教材等	教科書:『政治経済』(東京書籍) 「最新 政治経済資料集(新課程版)」(第一学習社) 「要点マスター政治・経済 整理と演習」(東京書籍)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	政治・経済における諸課題を捉え、考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、関連する資料を、様々なメディアを通して収集し、役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	政治・経済に関する諸課題について、多角的な観点から考察し、多様な立場・考え方を踏まえて公正に判断している。	よりよい社会の実現を視野に、政治・経済の諸課題に関心を持ち、その諸課題を、国民主権を担う公民として、主体的に解決しようとしている。
評価点	210 点	210 点	210 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 (1)現代の資本主義経済 (2)現代経済のしくみ (3)日本経済の発展と産業構造の変化 (4)福祉社会と日本経済の課題 第2編 グローバル化する国際社会 第2章 現代の国際経済 (1)国民経済と国際経済 (2)現代経済のしくみ (3)日本経済の発展と現状 (4)福祉社会と日本経済の課題	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析 ・提出物
	評価点	140 点	140 点	140 点
後期	第1章 現代の国際政治 (1)国際政治のしくみ (2)複雑化する国際政治と日本 第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 (1)民主政治の基本原則 (2)日本国憲法の基本原則 (3)日本国憲法の基本原則 (4)現代政治の特質と課題 ※ 国際社会における日本の課題	・定期考査 ・ワークシート	・定期考査 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析 ・提出物
	評価点	70 点	70 点	70 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4月	第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 (1)現代の資本主義経済 1 経済活動の意義 2 資本主義経済の発展と変容	12
	5月	(2)現代経済のしくみ 1 経済主体と経済の変容 2 生産の仕組みと企業 3 市場経済の機能と限界 4 国民所得と経済成長 5 金融のしくみと機能 6 財政の仕組みと機能	12
	6月	(3)日本経済の発展と現状 1 戦後日本経済の発展 2 日本経済の現状 (4)福祉社会と日本経済の課題 1 公害と環境保全 2 農業・食糧問題 3 中小企業の現状と課題 4 情報化の進展と社会の変化 5 消費者問題 6 雇用と労働問題 7 社会保障と福祉	12
	7月	第3章 日本経済の諸課題 【第1回考査】 探究活動1:日本経済の諸課題の探究	14
	8月	第2編 グローバル化する国際社会 第2章 現代の国際経済	6
	9月	(1)国民経済と国際経済 1 貿易と国際収支 2 戦後国際経済体制の展開 3 発展途上国の経済 (2)世界経済の現状と課題 1 グローバル化する国際経済 2 地球環境問題 3 資源・エネルギー問題 4 人口・貧困・感染症 【第2回考査】	16
	10月	第1章 現代の国際政治 (1)国際政治のしくみ 1 国際政治の特質 2 国際社会と国際法 3 国際連合の役割と課題 (2)複雑化する国際政治と日本 1 戦後国際関係の展開と日本 2 冷戦後の国際関係と日本 3 地域主義の動き 4 軍縮の動向と課題 5 紛争・難民・テロリズム 6 国際社会における日本の役割	16
	11月	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 (1)民主政治の基本原則 1 民主政治の成立 2 法と民主政治 3 基本的人権の確立 4 現代の民主政治 (2)日本国憲法の基本原則 1 日本国憲法の制定と基本原則 2 基本的人権の保障 3 平和主義 (3)日本の統治機構 1 国会と立法 2 内閣と行政 3 裁判所と司法 4 地方自治 (4)現代政治の特質と課題	16
後期	12月	1 戦後政治と政党 2 選挙と政治意識 3 世論と政治参加 【第3回考査】	12
	1月	探究活動2:国際社会における日本の政治経済の諸課題の探究	12
	2月		12

5.その他

○政経の授業では、皆さんの暮らす社会の身近な話題を取り上げ、掘り下げていきます。日々の生活の中で、新聞記事を読む、ニュース番組などを視る、夏の自由課題に積極的に取り組むなどの探究の姿勢を大切にしてください。

○授業の中では、周りとの意見交換、ディスカッション、レポート発表といった活動も取り入れます。授業には主体的に参加してください。

○1年間の政経の授業を通して、皆さんの暮らす社会をグラフ、表、新聞記事、映像、周りの意見などから改めて見つめ直してみてください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	倫理	単位数	4単位
		学年等	3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	先哲の思想を道標としながら、「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題を探究し、生徒自身の世界観・人生観を形成する。
使用教科書 副教材等	高等学校 倫理(第一学習社)・倫理ノート(第一学習社) ・最新図説倫理(浜島書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	哲学、思想、倫理観などあり方・生き方にかかわる事項や学び方を理解し、その知識を身につけている。また、諸資料を様々なメディアを通して収集し、役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、考察した結果を様々な方法で適切に表現できる。	哲学、思想、倫理観などについて広い角度から考察するとともに、社会変化や様々な立場、考え方を踏まえて今日の諸問題について公正に判断し、その過程や結果を適切に表現できる。	哲学、思想、倫理観などについて関心を持ち、意欲的にその内容を探究し、自らのあり方・生き方について自覚を深めようとしている。
評価点	210点	210点	210点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第Ⅰ編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方 第1章 人間の心と自己形成 第2章 人間の存在や価値と宗教 第3章 人間のあり方と社会	・定期考査	・定期考査 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析 ・ニュースプリントの記録内容 ・提出物
	評価点	140点	140点	140点
後期	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想 第5章 国際社会を生きる日本人としての自覚 第Ⅱ編 現代の諸課題と倫理 第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理	・定期考査	・定期考査 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析 ・ニュースプリントの記録内容 ・提出物
	評価点	70点	70点	70点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4月	第Ⅰ編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方 第1章 人間の心と自己形成 (1)青年期の課題と自己形成 探求活動1:青年期の課題について	12
	5月	第2章 人間の存在や価値と宗教 (1)ギリシャの思想 (2)ユダヤ教徒キリスト教 (3)イスラーム (4)仏教 (5)中国の思想 (6)宗教や芸術	12
	6月	第3章 人間のあり方と社会 (1)人間の尊厳 (2)科学革命の時代と自然観 (3)自由で平等な社会の実現 (4)人間性の回復と主体性の確立 探求活動2:幸福について	12
	7月		14
	8月	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想	6
	9月	(1)現代の思想と人間像 (2)生命への畏敬と社会参加 第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚 (1)日本固有の思想 (2)外来思想の受容 (3)町民意識のめざめと庶民思想 (4)西洋思想との出会い	16
後期	10月	第Ⅱ編 現代の諸課題と倫理 第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 (1)生命の問題と倫理課題 (2)地球環境の問題と倫理的課題 (3)科学技術の進展と倫理的課題	16
	11月		16
	12月	第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理 (1)福祉の向上と倫理的課題 (2)文化と宗教の影響と倫理的課題 (3)国際平和と倫理的課題	12
	1月	探究活動3:今日の倫理的課題の追究	12
	2月		12

5.その他

○ 倫理の学習は、先哲の考え方を知ることから始まりますが、それを単に記憶するだけでは意味がありません。その考え方をしっかりと理解しようとした上で、自分のこれまでのものの見方や考え方と照らし合わせながら、よりよい自分の価値観をつくりあげることが大切です。仮にある先哲の思想が難解でなかなか理解することができなかったとしても、その考え方の中から「何か」を学び取ることで、自分の価値観が広がり、人生がより豊かなものになると思います。1年間の倫理の学習が皆さんの人生にとって意義のあるものになることを願っています。

○ 倫理の学習内容は、人文科学はもとより、社会科学、自然科学など、ほぼすべての学問分野に関係してきます。学問の基礎としての倫理の授業を最後まで大切にしましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学Ⅲ・数学 B	単位数	4+1
		学年等	第3学年・理型

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	極限, 微分法及び積分法, 数列, 統計的な推測, ベクトル, 平面上の曲線と複素数平面の各分野について, 以下のことを目指す。 内容を理解し, 基礎的な知識を習得し, 技能を習熟する。 事象を数学的に考察する能力を培う。 数学のよさを認識できるようになる。 これらを活用する態度を身に付ける。 自らの学習方法・成果を振り返り, よりよい学習へ調整する。
使用教科書 副教材等	「高等学校 数学Ⅲ」(数研出版) 「高等学校 数学 B」(数研出版) 「高等学校 数学 C」(数研出版) 「クリアー 数学Ⅱ + B」(数研出版) 「チャート式 解法と演習 数学Ⅱ + B」(数研出版) 「クリアー 数学Ⅲ + C」(数研出版) 「チャート式 解法と演習 数学Ⅲ + C」(数研出版) 「10 日あればいい! 2025 大学入試短期集中ゼミ 大学入学共通テスト 数学Ⅰ・A」(実教出版) 「10 日あればいい! 2025 大学入試短期集中ゼミ 大学入学共通テスト 数学Ⅱ・B・C」(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする。
評価点	100 点	100 点	100 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	数学Ⅲ 第1章 関数 数学Ⅲ 第2章 極限 数学Ⅲ 第3章 微分法 数学Ⅲ 第4章 微分法の応用 数学Ⅲ 第5章 積分法とその応用 数学Ⅰ 数学 A の総合的復習	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	数学Ⅱ 数学 B の 総合的復習 数学Ⅰ 数学 A 数学Ⅱ 数学 B の 数学的な見方や考え方を育成する問題演習	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	数学Ⅲ 第1章 関数 数学Ⅲ 第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	8
	5	数学Ⅲ 第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	14
	6	数学Ⅲ 第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用	14
		総合演習・探究学習 第1回考査	9
	7	数学Ⅲ 第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用	10
	8	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第4章 図形と計量 第5章 データの分析	20
	9	数学Ⅱの総合的復習 第1章 場合の数と確率 第2章 図形の性質 総合演習・探究学習 第2回考査	15
後期	10	数学Ⅱの総合的復習 第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法	20
	11	数学Ⅲの総合的復習 第1章 数列 第2章 統計的な推測	10
	12	総合演習・探究学習 第3回考査	
	1	数学的な見方や考え方を育成する問題演習・探究学習	12
	2		24 9

5 その他

高校での数学の学習について

脳は何歳からでも活性化できます。普段から、速さと正確さを兼ね備えた計算力を身につけるよう心がけましょう。

授業や課題に次のような姿勢で取り組みましょう。

1. 授業で扱ったような問題を解けるようになるだけでなく、初めて見るような問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身に付ける。
2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。
※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解くことが必要です。
3. 自らの学習方法・成果を振り返り、よりよい学習へと改善していきましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	発展数学・数学 B	単位数	4+1 単位
		学年等	第 3 学年・理型

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	数学ⅠAⅡBC について、再度、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
使用教科書 副教材等	「高等学校 数学Ⅰ」(数研出版) 「高等学校 数学 A」(数研出版) 「高等学校 数学Ⅱ」(数研出版) 「高等学校 数学 B」(数研出版) 「高等学校 数学 C」(数研出版) 「クリアー 数学Ⅰ+A」(数研出版) 「チャート式 解法と演習 数学Ⅰ+A」(数研出版) 「クリアー 数学Ⅱ+B」(数研出版) 「チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B」(数研出版) 「クリアー 数学Ⅲ+C」(数研出版) 「チャート式 解法と演習 数学Ⅲ+C」(数研出版) 「10 日あればいい! 2025 大学入試短期集中ゼミ 大学入学共通テスト 数学Ⅰ・A」(実教出版) 「10 日あればいい! 2025 大学入試短期集中ゼミ 大学入学共通テスト 数学Ⅱ・B・C」(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
評価点	100 点	100 点	100 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	数学Ⅰ 数学 A 数学Ⅱ 数学 B 数学 C の 総合的復習(1)	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	数学Ⅰ 数学 A 数学Ⅱ 数学 B 数学 C の 総合的復習(2) 数学Ⅰ 数学 A 数学Ⅱ 数学 B 数学 C の 数学的な見方や考え方を育成する問題演習	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学 期	4	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第4章 図形と計量 第5章 データの分析	10
	5	数学Aの総合的復習 第1章 場合の数と確率 第2章 図形の性質	16
	6	数学Ⅱの総合的復習 第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法	
		数学Bの総合的復習 第1章 数列 第2章 統計的な推測	16
	7	数学Cの総合的復習 第1章 平面上のベクトル 第2章 空間のベクトル 第3章 複素数平面 第4章 式と曲線	
		総合演習・探究学習 ◆-----第1回考查	12
	8	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第4章 図形と計量 第5章 データの分析	6
		数学Aの総合的復習 第1章 場合の数と確率 第2章 図形の性質	16
	9	総合演習・探究学習 ◆-----第2回考查	12
2 学 期	10	数学Ⅱの総合的復習 第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法	16
	11	数学Bの総合的復習 第1章 数列 第2章 統計的な推測	14
		数学Cの総合的復習 第1章 平面上のベクトル 第2章 空間のベクトル 第3章 複素数平面 第4章 式と曲線	6
	12	総合演習・探究学習 ◆-----第3回考查	
	1	◆-----数学的な見方や考え方を育成する問題演習・探究学習	
	2	◆-----	

5 その他

身につけて欲しい高校数学の学習

まず、速さと正確さを兼ね備えた計算力を身につけてください。その上で、授業や課題に次のような姿勢で取り組んでください。

1. 授業で扱ったような問題を解けるようになるだけでなく、初めて見るような問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身につける。
2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。

※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解くことが必要です。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学演習ⅠA	単位数	3単位
		学年等	第3学年・文科Ⅰ型(情報選択無)

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1年次に履修・学習した「数学Ⅰ」の数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析、「数学A」の場合の数と確率及び図形の性質について、再度、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
使用教科書 副教材等	「高等学校 数学Ⅰ」(数研出版) 「高等学校 数学A」(数研出版) 「クリアー 数学Ⅰ+A」(数研出版) 「チャート式 解法と演習 数学Ⅰ+A」(数研出版) 「10日あればいい! 2025 大学入試短期集中ゼミ 大学入学共通テスト 数学Ⅰ・A」(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
評価点	100点	100点	100点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	数学Ⅰ 数学A の総合的復習(1)	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50点	50点	50点
後期	数学Ⅰ 数学A の総合的復習(2)	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式	27
	5	第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第4章 図形と計量 第5章 データの分析	
	6	◆-----第1回考查	
	9	数学Aの総合的復習 第1章 場合の数と確率 第2章 図形の性質 総合演習・探究学習 ◆-----第2回考查	
後期	9	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式	24
	10	第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第4章 図形と計量 総合演習・探究学習	
	11	◆-----第3回考查 第5章 データの分析	
	12	数学Aの総合的復習 第1章 場合の数と確率	
	1	第2章 図形の性質	
	2	総合演習・探究学習	
	3	◆-----	

5 その他

身につけて欲しい高校数学の学習

まず、速さと正確さを兼ね備えた計算力を身につけてください。その上で、授業や課題に次のような姿勢で取り組んでください。

1. 授業で扱ったような問題を解けるようになるだけでなく、初めて見るような問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身につける。
2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。

※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解くことが必要です。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学演習ⅠA	単位数	2単位
		学年等	第3学年・文科Ⅰ型(情報選択有)

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1年次に履修・学習した「数学Ⅰ」の数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析、「数学A」の場合の数と確率及び図形の性質について、再度、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
使用教科書 副教材等	「高等学校 数学Ⅰ」(数研出版) 「高等学校 数学A」(数研出版) 「クリアー 数学Ⅰ+A」(数研出版) 「チャート式 解法と演習 数学Ⅰ+A」(数研出版) 「10日あればいい! 2025 大学入試短期集中ゼミ 大学入学共通テスト 数学Ⅰ・A」(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
評価点	100点	100点	100点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	数学Ⅰ 数学A の総合的復習(1)	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50点	50点	50点
後期	数学Ⅰ 数学A の総合的復習(2)	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式	18
	5	第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第4章 図形と計量 第5章 データの分析	
	6	◆-----第1回考查	
	9	数学Aの総合的復習 第1章 場合の数と確率 第2章 図形の性質 総合演習・探究学習 ◆-----第2回考查	
後期	9	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式	16
	10	第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第4章 図形と計量 総合演習・探究学習	
	11	◆-----第3回考查 第5章 データの分析	
	12	数学Aの総合的復習 第1章 場合の数と確率	
	1	第2章 図形の性質	
	2	総合演習・探究学習	
	3	◆-----	

5 その他

身につけて欲しい高校数学の学習

まず、速さと正確さを兼ね備えた計算力を身につけてください。その上で、授業や課題に次のような姿勢で取り組んでください。

1. 授業で扱ったような問題を解けるようになるだけでなく、初めて見るような問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身につける。
2. 考えたことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。

※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解くことが必要です。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学演習ⅠA	単位数	2 単位
		学年等	第 3 学年・文科Ⅱ型(情報選択有)

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1年次に履修・学習した「数学Ⅰ」の数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析、「数学 A」の場合の数と確率及び図形の性質について、再度、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
使用教科書 副教材等	「高等学校 数学Ⅰ」(数研出版) 「高等学校 数学 A」(数研出版) 「クリアー 数学Ⅰ+A」(数研出版) 「チャート式 解法と演習 数学Ⅰ+A」(数研出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
評価点	100 点	100 点	100 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	数学Ⅰ 数学 A の総合的復習(1)	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	数学Ⅰ 数学 A の総合的復習(2)	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式	18
	5	第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第4章 図形と計量 第5章 データの分析	
	6	◆-----第1回考查	
	9	数学Aの総合的復習 第1章 場合の数と確率 第2章 図形の性質 総合演習・探究学習 ◆-----第2回考查	
後期	9	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式	16
	10	第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第4章 図形と計量 総合演習・探究学習	
	11	◆-----第3回考查 第5章 データの分析	
	12	数学Aの総合的復習 第1章 場合の数と確率	
	1	第2章 図形の性質	
	2	総合演習・探究学習	
	3	◆-----	

5 その他

身につけて欲しい高校数学の学習

まず、速さと正確さを兼ね備えた計算力を身につけてください。その上で、授業や課題に次のような姿勢で取り組んでください。

1. 授業で扱ったような問題を解けるようになるだけでなく、初めて見るような問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身につける。
2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。

※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解くことが必要です。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学演習ⅠA	単位数	1単位
		学年等	第3学年・文科Ⅱ型(情報選択無)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	1年次に履修・学習した「数学Ⅰ」の数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析、「数学A」の場合の数と確率及び図形の性質について、再度、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
使用教科書 副教材等	「高等学校 数学Ⅰ」(数研出版) 「高等学校 数学A」(数研出版) 「クリアー 数学Ⅰ+A」(数研出版) 「チャート式 解法と演習 数学Ⅰ+A」(数研出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
評価点	100点	100点	100点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	数学Ⅰ 数学A の総合的復習(1)	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50点	50点	50点
後期	数学Ⅰ 数学A の総合的復習(2)	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式	9
	5	第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第4章 図形と計量 第5章 データの分析	
	6	◆-----第1回考查	
	9	数学Aの総合的復習 第1章 場合の数と確率 第2章 図形の性質 総合演習・探究学習 ◆-----第2回考查	
後期	9	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式	8
	10	第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第4章 図形と計量 総合演習・探究学習	
	11	◆-----第3回考查 第5章 データの分析	
	12	数学Aの総合的復習 第1章 場合の数と確率	
	1	第2章 図形の性質	
	2	総合演習・探究学習	
	3	◆-----	

5 その他

身につけて欲しい高校数学の学習

まず、速さと正確さを兼ね備えた計算力を身につけてください。その上で、授業や課題に次のような姿勢で取り組んでください。

1. 授業で扱ったような問題を解けるようになるだけでなく、初めて見るような問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身につける。
2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。

※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解くことが必要です。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学 B・数学 C	単位数	2単位
		学年等	第 3 学年・文科 I 型

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	「数学 B」と「数学 C」について、再度、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
使用教科書 副教材等	「高等学校 数学 B」(数研出版) 「高等学校 数学 C」(数研出版) 「クリアー 数学 II B」(数研出版) 「クリアー 数学 C」(数研出版) 「チャート式 解法と演習 数学 II B」(数研出版) 「チャート式 解法と演習 数学 II B」(数研出版) 「10 日あればいい! 20 点 25 大学入試短期集中ゼミ 大学入学共通テスト 数学 II・B・C」(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
評価点	100 点	100 点	100 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	数学 B 数学 C の総合的復習(1)	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	数学 B 数学 C の総合的復習(2)	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	定期考査 課題テスト 単元確認テスト 提出物等	探究学習 学習の振り返り 提出物等
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	数学 B の総合的復習 第 2 章 統計的な推測	18
	5	第 1 節 確率分布 第 2 節 統計的な推測 総合演習・探究学習	
	6	◆-----第 1 回考査	
		数学 C の総合的演習	
	7	第 1 章 平面上のベクトル 第 1 節 ベクトルとその演算 第 2 節 ベクトルと平面図形	
	8	第 2 章 空間のベクトル 総合演習・探究学習	
	9	◆-----第 2 回考査	
後期	10	数学 B の総合的復習 第 1 章 数列	16
	11	第 1 節 等差数列と等比数列 第 2 節 いろいろな数列 第 3 節 漸化式と数学的帰納法	
	12	◆-----第 3 回考査	
	1	◆-----	
	2	数学 B・数学 C の総合的演習 総合演習・探究学習	
			18

5 その他

身につけて欲しい高校数学の学習

まず、速さと正確さを兼ね備えた計算力を身につけてください。その上で、授業や課題に次のような姿勢で取り組んでください。

1. 授業で扱ったような問題を解けるようになるだけでなく、初めて見るような問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身につける。
2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。

※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解くことが必要です。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	物理	単位数	5単位
		学年等	第3学年・理型

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身につけるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	物理(東京書籍) 新課程版 セミナー物理基礎+物理(第一学習社) 改訂版フォトサイエンス物理図録(数研出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物理学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
評価点	210点	210点	210点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	[第1編 さまざまな運動] 第4章 円運動 第5章 単振動 第6章 万有引力 第7章 気体分子の運動 [第2編 波] 第3章 光 [第3編 電気と磁気] 第1章 電場と電位 第2章 電流	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・学習課題等 ・実験レポート等の記述分析
	評価点	120点	120点	120点
後期	第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波 [第4編 原子] 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・学習課題等 ・実験レポート等の記述分析
	評価点	90点	90点	90点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第1編 さまざまな運動〕 第4章 円運動 1節 円運動 2節 慣性力 第5章 単振動 1節 単振動 2節 さまざまな単振動 3節 単振動のエネルギー <u>探究活動1 単振り子</u> 第6章 万有引力 1節 惑星の運動 2節 万有引力 第7章 気体分子の運動 1節 気体の性質 2節 気体の分子運動と状態方程式 3節 熱力学第1法則と気体の状態変化 2節 熱力学第2法則と熱機関 第1回考査	10 18 17
	5		
	6		
	7	〔第2編 波〕 第3章 光 1節 光の伝わり方 2節 光の回折と干渉 3節 レンズと鏡	17
	8	〔第3編 電気と磁気〕 第1章 電場と電位 1節 静電気 2節 電場(電界) 3節 電位 4節 電場の中の物体 5節 コンデンサー	10 17
	9	第2章 電流 1節 電流 2節 直流回路 第2回考査	1
	10		
	10	第3章 電流と磁場 1節 磁場(磁界) 2節 電流がつくる磁場 3節 電流が磁場から受ける力(電磁力) 4節 ローレンツ力 第4章 電磁誘導と電磁波 1節 電磁誘導 2節 自己誘導と相互誘導 3節 交流 4節 電磁波 第3回考査	20 20
	11		
	12	〔第4編 原子〕 第1章 電子と光 1節 電子 2節 光の粒子性 3節 X線 4節 波動性と粒子性 第2章 原子と原子核 1節 原子の構造 2節 原子核 3節 原子核の崩壊 4節 核反応と核エネルギー 5節 素粒子	17 16 10
後期	1	総復習(物理基礎・物理) 終章 物理学が築く未来 <u>探究活動3 重力加速度の測定実験の検討</u>	2
	2		
	3		

5 その他

- 物理の授業では自分の考えをしっかりと持った上で、ペア学習やグループ学習を通して学びを深めていきます。
- 探究活動を行います。探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説や検証計画を立て、実験結果の考察をグループで行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	化学	単位数	3単位
		学年等	第3学年・理型

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	第一学習社「高等学校 化学」(化学 708) 第一学習社「2024セミナー化学基礎+化学」

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	化学の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価点	300 点	300 点	300 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	〔第Ⅲ章 無機物質〕 第1節 周期表と元素の性質 第2節 非金属元素 第3節 典型金属元素 第4節 遷移元素 〔第Ⅳ章 有機化合物〕 第1節 有機化合物の特徴 第2節 脂肪族炭化水素 第3節 酸素を含む脂肪族化合物 第4節 芳香族化合物	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・学習課題等 ・実験レポート等の記述分析
	評価点	150 点	150 点	150 点
後期	〔第Ⅴ章 高分子化合物〕 第1節 高分子化合物 第2節 天然高分子化合物 第3節 合成高分子化合物 探究活動1～4 終章 化学の築く未来	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・学習課題等 ・実験レポート等の記述分析
	評価点	150 点	150 点	150 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第Ⅲ章 無機物質〕 第1節 物質の状態変化 ①元素の分類と性質 ②化合物の性質と周期表	2
	5	第2節 非金属元素 ①水素 ②18 族元素 ③17 族元素 ④16 族元素 ⑤15 族元素 ⑥14 族元素 ⑦無機化学工業	11
		第3節 典型金属元素 ①1 族元素 ②2 族元素 ③両性を示す典型金属	6
	6	第4節 遷移元素 ①遷移元素 ②鉄 ③銅 ④銀 ⑤亜鉛 ⑥クロムとマンガン ⑦金属イオンの定性分析 第1回考查	8
	7	〔第Ⅳ章 有機化合物〕 第1節 有機化合物の特徴 ①特徴と分類 ②構造式の決定	6
		第2節 脂肪族炭化水素 ①飽和炭化水素 ②不飽和炭化水素	5
	8	第3節 酸素を含む脂肪族化合物 ①アルコールとエーテル ②アルデヒドとケトン	8
	9	③カルボン酸とエステル ④油脂とセッケン	
		第4節 芳香族化合物 ①芳香族炭化水素 ②酸素を含む芳香族化合物 ③窒素を含む芳香族化合物 ④芳香族化合物の分離 第2回考查	8
後期	10	〔第Ⅴ章 高分子化合物〕 第1節 高分子化合物 ①高分子化合物の特徴	1
		第2節 天然高分子化合物 ①単糖・二糖 ②多糖 ③アミノ酸 ④タンパク質 ⑤核酸	8
	11	第3節 合成高分子化合物 ①合成高分子化合物の特徴 ②合成繊維 ③合成樹脂 ④機能性高分子化合物 ⑤ゴム	8
		探究活動1 物質の状態 第3回考查	7
	12	探究活動2 物質の変化と平衡	7
	1	探究活動3 無機物質	9
	2	探究活動4 有機化合物・高分子化合物	9
	3	終章 化学の築く未来	2

5 その他

- 化学の授業では自分の考えをしっかりと持った上で、ペア学習やグループ学習を通して学びを深めていきます。
- 探究活動を行います。探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説や検証計画を立て、実験結果の考察をグループで行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	化学基礎演習	単位数	2 単位
		学年等	第 3 学年・文科 I 型

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	化学基礎で学んだ物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	啓林館「i 版 化学基礎」(化基 707) 啓林館「ケミ探+化学基礎」 啓林館「センサー化学基礎」(デジタル教材、学習サポートプラットフォームLibryを活用)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価点	300 点	300 点	300 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1部 物質の構成 混合物の分離, 成分元素の検出 粒子の熱運動と物質の三態 化学結合 第2部 物質の変化 物質質量, 化学変化の量的関係 探究活動1～7	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験, 探究レポート等の記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験, 探究レポート等の記述分析	・学習課題等 ・実験, 探究レポート等の記述分析
	評価点	150 点	150 点	150 点
後期	第2部 物質の変化 つづき 中和と中和滴定 酸化還元反応 探究活動8～14	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験, 探究レポート等の記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験, 探究レポート等の記述分析	・学習課題等 ・実験, 探究レポート等の記述分析
	評価点	150 点	150 点	150 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第1部 物質の構成〕 混合物の分離, 成分元素の検出	10
	5	探究活動1 醤油から塩化ナトリウムを取り出す 探究活動2 白色粉末の同定	
	6	粒子の熱運動と物質の三態 探究活動3 水と二酸化炭素の状態図	
		化学結合1	4
		◆-----第1回考查	
	7	化学結合2 探究活動4 化学結合と物質の分類 探究活動5 分子量・分子間力と沸点 探究活動6 非金属・金属とそれらが結合したもの	10
		〔第2部 物質の変化〕	
	8	物質質量, 化学変化の量的関係	8
	9	探究活動7 過不足のある化学変化の量的関係 ◆-----第2回考查	
後期	10	中和と中和滴定 探究活動8 逆滴定(アンモニアの定量)	16
	11	探究活動9 二段階中和 探究活動10 中和反応と電気伝導度の変化 ◆-----第3回考查	
	12	酸化還元反応	18
	1	探究活動11 酸化還元滴定(ヨウ素滴定) 探究活動12 酸化還元滴定(CODの測定)	
	2	探究活動13 金属と水・酸の反応	
	3	探究活動14 金属単体の同定	

5 その他

- 化学基礎演習の授業では自分の考えをしっかりと持った上で、ペア学習やグループ学習を通して学びを深めていきます。
- 学習課題は ICT 機器を活用して配信・提出を行います。1年次に各自のタブレット端末に Libry のアプリケーションをインストールしているので、確認してください。
- 探究活動を行います。探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説や検証計画を立て、実験結果の考察をグループで行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	生物	単位数	5 単位
		学年等	第 3 学年・理型・生物選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生物や生物現象に関わり, 理科の見方・考え方を働かせ, 見通しをもって観察, 実験を行うことなどを通して, 生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度と, 生命を尊重し, 自然環境の保全に寄与する態度を養う。
使用教科書 副教材等	教科書: 「生物」(数研出版) 補助教材: 「フォトサイエンス生物図録」(数研出版) 問題集: 「リードLightノート生物」(数研出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的に探究するために必要 な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見いだし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 得られた結果を分析して解釈し, 表現するなど, 科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度や, 生命を尊重し, 自然環境の保全に寄与する態度が養われている。
評価点	200点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第 1 編 生物の進化	・定期考査等	・定期考査等 ・実験レポートや振り返りシート等の記述分析	・学習課題等 ・実験レポートや振り返りシート等の記述分析
	第 2 編 生命現象と物質			
	第 3 編 遺伝情報の発現と発生			
	評価点	130 点	130 点	130 点
2	第 4 編 生物の環境応答	・定期考査等	・定期考査等 ・実験レポートや振り返りシート等の記述分析	・学習課題等 ・実験レポートや振り返りシート等の記述分析
	第 5 編 生態と環境			
	評価点	70 点	70 点	70 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	第1編 生物の進化 第1章 生物の進化 1節 生命の起源と生物の進化 / 2節 遺伝子の変化と多様性	13
	5	3節 遺伝子の組み合わせの変化 / 4節 進化のしくみ 5節 生物の系統と進化 / 6節 人類の系統と進化	16
	6	第2編 生命現象と物質 第2章 細胞と分子 1節 生体物質と細胞 / 2節 タンパク質の構造と性質 3節 化学反応にかかわるタンパク質 / 4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 第1回考査	16
	7	第3章 代謝 1節 代謝とエネルギー / 2節 呼吸と発酵 / 3節 光合成	13
	8	第3編 遺伝情報の発現と発生 第4章 遺伝情報の発現と発生 1節 DNAの構造と複製 / 2節 遺伝情報の発現	32
	9	3節 遺伝子の発現調節 / 4節 発生と遺伝子発現 5節 遺伝子を扱う技術	
		第2回考査	
	10	第4編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 1節 刺激の受容 / 2節 ニューロンとその興奮 3節 情報の統合 / 4節 刺激への反応 5節 動物の行動	12
	11	第6章 植物の環境応答 1節 植物の生活と植物ホルモン / 2節 発芽の調節 3節 成長の調節 / 4節 器官の分化と花芽形成の調節	18
	12	5節 環境の変化に対する応答 / 6節 配偶子形成と受精 第3回考査	15
後期	1	第5編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 1節 個体群の構造と性質 / 2節 個体群内の個体間の関係	45
	2	3節 異なる種の個体群間の関係 / 4節 生態系の物質生産と物質循環	
	3	5節 生態系と人間生活	

5 その他

- 生物の授業では自分の考えをしっかりとった上で、自立した学習やペア・グループ学習を通して学びを深めます。
- 学習課題や振り返りの提出は、指定された書面もしくは Classroom 内で行います。
- 探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説や検証計画を立て、実験結果の考察をグループで行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	生物基礎演習	単位数	2単位
		学年等	第3学年・文型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	「生物基礎」全範囲の基本的な概念や原理・法則を理解させ、基本的な内容の定着を図るとともに、生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
使用教科書 副教材等	数研出版「生物基礎」 数研出版「リードα生物基礎」 数研出版「フォトサイエンス生物図録」

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようしたり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようしたりしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	復習と問題演習	・定期考査等	・定期考査等	・学習課題等
	第1章 生物の特徴		・実験レポート・振り返りシート等の記述分析	・実験レポート・振り返りシート等の記述分析
	第2章 遺伝子とそのはたらき			
	評価点	130点	130点	130点
後期	第3章 ヒトの体内環境の維持	・定期考査等	・定期考査等	・学習課題等
	第4章 生物の多様性と生態系		・実験レポート・振り返りシート等の記述分析	・実験レポート・振り返りシート等の記述分析
	総合問題演習			
	評価点	70点	70点	70点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第1章 生物の特徴〕 第1節 生物の多様性と共通性	4
	5	第2節 エネルギーの代謝 第3節 呼吸と光合成	4
		探究活動 1	
	6	〔第2章 遺伝子とそのはたらき〕 第1節 遺伝情報と DNA	4
	7	第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現	2
		探究活動 2	
		第1回考査	
	8	〔第3章 ヒトの体内環境の維持〕 第1節 体内での情報伝達と調節	7
	9	第2節 体内環境の維持のしくみ 第3節 免疫のはたらき	7 4
		探究活動 3 第2回考査	
後期	10	〔第4章 生物の多様性と生態系〕 第1節 植生と遷移	4
		第2節 植生の分布とバイオーム	4
	11	第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全	4 4
		探究活動 4	
		第3回考査	
	12	生物学的な見方や考え方を育成する問題演習	18
		探究活動 5	
	1 2 3		

5 その他

- 生物基礎の授業では自分の考えをしっかりとった上で、ペア学習やグループ学習を通して学びを深めます。
- 学習課題や振り返りの提出は、指定された書面もしくは Classroom 内で行います。
- 探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説や検証計画を立て、実験結果の考察をグループで行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	地学基礎演習	単位数	2 単位
		学年等	第 3 学年・文科 I 型

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	地学基礎で学んだ物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、自然の事物・現象について理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	啓林館「地学基礎」(地基 703) 浜島書店「ニューステージ地学図表」 河合出版(マーク式基礎問題集「地学基礎」)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、自然の事物・現象について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価点	300 点	300 点	300 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1部 太陽系の姿、惑星の特徴、太陽系の小天体、その誕生、地球概観と構造、プレートの運動の問題演習及び探究活動 副教材やプリント等で、地学基礎の基本的内容を押さえ、応用問題に取り組む。 第 2 部 地震・火山・火成岩と鉱物の問題演習及び探究活動 ・副教材やプリント等で、地学基礎の基本的内容を押さえ、応用問題に取り組む。 探究活動1～8	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・観察、探究レポート等の記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・観察、探究レポート等の記述分析	・学習課題等 ・観察、探究レポート等の記述分析
	評価点	150 点	150 点	150 点

後 期	第2部 宇宙の歴史や地球の歴史や地層の成り立ち・地球カレンダーを通して、空間的広がりや時間的広がりを学ぶ実験・実習を通じて、地球と宇宙の歴史や成り立ちについて、これまで学習したことについての理解と教養を深め、人間生活と自然環境が深く関わっていることを認識する。 防災カレンダー作成や地学カルタの作成を通して、地学の内容を理解する。総合発表によって地球人としてのメッセージを発信する。 探究活動9～14	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・観察, 探究レポート等の記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・観察, 探究レポート等の記述分析	・学習課題等 ・観察, 探究レポート等の記述分析
	評価点	150 点	150 点	150 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前 期	4	〔第1部 固体地球とその活動〕	10
		地球の大きさなどについて、身近な環境から調べてみよう。	
	5	探究活動1 地球の形と大きさ	4
	6	探究活動2 高度と気圧・気温の関係	
		探究活動3 緯度別に見る地球のエネルギー収支	
	7	探究活動4 地球環境の変化と生物の活動の関係	4
		◆-----第1回考査	10
	8	探究活動5 地域の災害対策	
		探究活動6 地球規模の気温変動	
		探究活動7 岩石や金属の密度の測定	
後 期	9	◆-----第2回考査	8

後 期	10	探究活動9 プレートと地球の活動の関係を調べる	16
	11	探究活動10 震源の決定	
		探究活動11 地層の観察	
	12	探究活動12 星や惑星の観察	18
	1	探究活動13 火成岩の組織や火山灰の観察	
	2	探究活動14 雲の観察と雲を作ろう	
	3	◆-----第3回考査 広島 naturally の魅力について語ってみよう！(発表) 広島 の岩石と水 の関係 瀬戸内海 の自然 瀬戸内気候 広島 の食べ物について	

5 その他

- 地学基礎演習の授業では自分の考えをしっかりとった上で、ペア学習やグループ学習を通して学びを深めていきます。
 - 学習課題は ICT 機器を活用して配信・提出を行います。タブレット端末を授業に持参してください。
 - 探究活動を行います。探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説や検証計画を立て、実験結果の考察をグループで行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。
 - 地球人としての自覚を持つ。
- 授業開始時間を守ることや課題を期限内に提出することは基本的なことです。同時に地球人として地球を学ぶことの大切さを認識しよう。
- 授業を大切に復習と実力アップを意識した学習に取り組もう。
- 学習は暗記に頼らず、与えられた資料をもとに思考し創造し解決策を導くことができるように日頃から図表見て正しく判断する科学的な思考力を身に付けよう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	体育	単位数	2 単位
		学年等	第3学年

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解し、それらの技能を身に付けるようにする。 (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、他者の尊重などの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
使用教科書 副教材等	現代高等保健体育(大修館書店) ステップアップ高校スポーツ2023(大修館書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、体力の必要性等について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画などの意欲をもち、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付けようとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	体づくり運動 選択Ⅰ:バドミントン ハンドボール テニス 上記3種目から1種目選択 体育理論 ダンス:民踊	スキルテスト 授業中の行動観察 レポートの記述分析	授業中の行動観察 レポートの記述分析	授業中の行動観察 レポートの記述分析
		120点	120点	120点
後期	選択Ⅱ:バドミントン ハンドボール テニス 上記3種目から1種目選択 選択Ⅲ:サッカー バスケットボール 長距離走 上記3種目から1種目選択	スキルテスト 授業中の行動観察 レポートの記述分析	授業中の行動観察 レポートの記述分析	授業中の行動観察 レポートの記述分析
		80点	80点	80点

学 期	月	単元及び学習内容			時 数
		男女共修			
前 期	4	領域【体づくり運動】 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。			36
		選択Ⅰ【バドミントン ハンドボール テニス】			
	5	領域【バドミントン】 ・安定したラケット操作と状況に応じた連携動作で狙った場所へ打てる技術で、攻防ができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	領域【ハンドボール】 ・状況に応じてパスやシュートを使い分け、安定したボール操作などによって攻防ができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	領域【テニス】 ・安定したラケット操作と状況に応じた連携動作で狙った場所へ打てる技術で、攻防ができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	
	6 7				
後 期	8	領域【体育理論】 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解することができる。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。			34
	9	領域【ダンス】 ・日本の民踊から、それらの踊り方の特徴を強調して、音楽に合わせて多様な動きと組み方で仲間と対応して踊ることができる。 ・自己や仲間の課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。			
		選択Ⅱ【バドミントン ハンドボール テニス】			
	10	領域【バドミントン】 ・安定したラケット操作と状況に応じた連携で狙った場所へ打てる技術で、攻防ができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	領域【ハンドボール】 ・状況に応じてパスやシュートを使い分け、安定したボール操作などによって攻防ができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	領域【テニス】 ・安定したラケット操作と状況に応じた連携で狙った場所へ打てる技術で、攻防ができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	
	11				
		選択Ⅲ【サッカー バスケットボール 長距離走＋軽スポーツ】			
	12 1 2 3	領域【サッカー】 ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防ができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	領域【バスケットボール】 ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防ができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	領域【長距離走＋軽スポーツ】 ・自己に適したペースを維持して走ることができる。 ・自己や仲間の課題を発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	

年間指導計画表(シラバス)

科目名	音楽表現	単位数	2単位
		学年等	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	音楽の諸活動を通して、生涯に渡り音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、音楽Ⅰ・Ⅱで身につけた知識・技能を生かしてより高度な表現活動に取り組むことで現代社会に必要な正解のない問題に粘り強く向かい合う資質・能力を育成する。 (1)歌唱・器楽・鑑賞の技能を身につける。 (2)身につけた知識・技能を生かし、表現意図をもって表現活動に取り組む。 (3)自らの課題を解決するために音楽による表現活動に他者と協働的に取り組み、生涯に渡り音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を養う。
使用教科書 副教材等	MOUSA1(教育芸術社)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって鑑賞している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、表現意図をもって演奏している。	自らが、音楽が持つ魅力を探し探究し楽しんでいこうという思いで学習に取り組んでいる。作品の良さを音楽的知識と結びつけ、自分の感性を働かせて音楽表現や鑑賞を楽しむことができている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	・音楽とかかわる仕事 ・童謡弾き歌い ・ピアノ独奏 ・音楽学習まとめ(練習/発表) ・伴奏づけ	・実技試験 ・筆記試験	・実技試験 ・ワークシート ・レポート課題	・振り返りシート等 ・授業中の取り組み
	評価点	100点	100点	100点
後期	・器楽アンサンブル ・合唱に挑戦 ・様々な形態の音楽表現 ・日本の伝統芸能 ・進路に応じた課題研究	・実技試験 ・筆記試験	・実技試験 ・ワークシート ・レポート課題 ・プレゼン課題	・振り返りシート等 ・授業中の取り組み
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	音楽とかかわる仕事 ・・・音楽作品が生まれてから人々の耳に届くまでにかかる職業について学ぶ。生活及び社会における音楽や、音楽に関わる人々の役割や意義についての理解を深め、様々な音楽を歌い、鑑賞する。	6
	5	楽しい童謡～ピアノで弾き語りをしよう～ ・・・なじみのある童謡をピアノで弾き語りし、楽曲の表現内容を総合的に理解しながら創意工夫をして歌う。	7
		季節のうたを歌おう～春・夏～ ・・・様々な表現形態で季節の歌(童謡)を歌う。ソロやデュエット、合唱などを通して、それぞれの良さや醍醐味を味わう。	2
	6	独奏に挑戦 ・・・ピアノの技術向上を目指し、演奏発表する。独奏の演奏形態の特徴を理解し、表現上の効果を意識して個性豊かに表現する。	3
		1学期の音楽学習のまとめ ・・・1学期のまとめとして、弾き語り及び歌唱の演奏発表を行う。	7
	7	季節の歌を歌おう～秋・冬～ ・・・季節に合った歌を選択し、伴奏づけを行い発表し合う。歌う喜びを味わうとともに、伴奏づけを行うことで、ピアノの技術向上を目指し、楽典の知識理解を図る。	3
	8		
	9	伴奏づけしてみよう	8
後期	10	器楽アンサンブルをしよう ・・・季節に合った歌を選択し、伴奏づけを行い発表し合う。歌う喜びを味わうとともに、伴奏づけを行うことで、ピアノの技術向上を目指し、楽典の知識理解を図る。	8
	11	合唱に挑戦 ・・・歌詞のメッセージや詞に付けられた音楽の旋律やリズム、ハーモニーの意味を探る。音の重なり合う響きを感じ合う。	8
	12	様々な表現形態を生かした合奏 ・・・様々な表現形態による楽曲を選択し、楽器の音色や特徴を生かして個性豊かにアンサンブルを行う。	4
		日本の伝統音楽と楽器 ・・・伝統音楽で使用されている楽器や楽器構成の特徴、舞台芸術のよさやおもしろさを理解して鑑賞する。	7
	1		
	2	進路に応じた個人研究～生涯に渡って音楽に親しんでいくために～ ・・・それぞれの進路や興味・関心に応じて個別課題を設定し、その解決を図るための学習活動、音楽活動を通して、一人ひとりの個性豊かな音楽能力を高め、生涯に渡って音楽に親しんでいくための豊かな音楽観を形成する。	7

5 その他

音楽表現では、保育音楽の内容にも触れながら授業を行います。歌、ピアノの演奏技能の向上を目指すことはもちろんですが、技能より大切なのは表現意図をもって表情豊かに音楽を楽しむことです。将来、子どもたちに自分を表現する手段として演奏することの喜びを伝えることができるよう、積極的に授業に取り組み、充実した豊かな時間を過ごしましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	音楽研究	単位数	3単位
		学年等	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	音楽の諸活動を通して、生涯に渡り音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、音楽Ⅰ・Ⅱで身につけた知識・技能を生かしてより高度な表現活動に取り組むことで現代社会に必要な正解のない問題に粘り強く向かい合う資質・能力を育成する。 (1)歌唱・器楽・鑑賞の技能を身につける。 (2)身につけた知識・技能を生かし、表現意図をもって表現活動に取り組む。 (3)自らの課題を解決するために音楽による表現活動に他者と協働的に取り組み、生涯に渡り音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を養う
使用教科書 副教材等	MOUSA1(教育芸術社)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって鑑賞している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、表現意図をもって演奏している。	自らが、音楽が持つ魅力を探し探究し楽しんでいこうという思いで学習に取り組んでいる。作品の良さを音楽的知識と結びつけ、自分の感性を働かせて音楽表現や鑑賞を楽しむことができている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	ソルフエージュ・音楽理論 音楽史 声楽 鑑賞 器楽	・実技試験 ・ワークシート ・授業中の取り組み	・実技試験 ・レポート課題	・振り返りシート等 ・授業中の取り組み
	評価点	100点	100点	100点
後期	舞台芸術(オペラ) 演奏発表 合唱 日本の伝統音楽	・実技試験 ・筆記試験 ・授業中の取り組み	・実技試験 ・ワークシート ・レポート課題 ・課題レポート ・授業中の取り組み	・振り返りシート等 ・授業中の取り組み
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	ソルフェージュ・音楽理論 ・曲にふさわしい発声や発音、歌う姿勢を身につけて歌い、表現に必要な技能を身につける ・日本のポピュラー音楽、歌曲の歌詞と曲想との関わりについて理解する ・音楽を形作っている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら歌唱表現を工夫する	12
	5	音楽史 ・我が国及び諸外国の音楽の歴史について理解する ・多様な音楽の文化的価値について考える ・音楽に対する文化と伝統を尊重する態度を養う	12
	6	声楽 ・独唱及び様々な形態のアンサンブルを通して楽曲の表現内容について理解を深めるとともに創造的に歌唱表現をするために必要な技能を身につける	10
	7		
	8	鑑賞 西洋音楽史における自分の最も好きな作曲家について(探究)	8
		器楽	
	9	・楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身につける ・音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができるようにする ・音楽性豊かな表現を追求する態度を養う	12
	10	オペラ ・オペラを鑑賞し、物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身につける ・曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合ってよりよい歌唱表現につなげる	8
	11	演奏発表 (探究) ・音楽Ⅰ・Ⅱの学習を踏まえて、演奏発表会を行う	23
	12	【楽曲分析】作品を多角的な視点で分析し、作曲者の意図を読み取りプログラムノートを作成する。 【コンサートマネジメント】タイムスケジュール・ステージマネジメントなどコンサートを行うにあたって必要な準備を行う。 【演奏研究】プログラムを組み、聴く人に作品のよさ・おもしろさを伝えることのできる演奏をめざして演奏研究を行う。	
	1	日本の伝統音楽 ・琵琶・文楽・歌舞伎及び各地に伝わる風流踊りを鑑賞したり調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深める ・音楽表現の共通性と固有性について気づいたことを述べ合う	10
	2	進路に応じた個人研究～生涯に渡って音楽に親しんでいくために～ それぞれの進路や興味・関心に応じて個別課題を設定し、その解決を図るための学習活動、音楽活動を通して、一人ひとりの個性豊かな音楽能力を高め、生涯に渡って音楽に親しんでいくための豊かな音楽観を形成する。	10
	3		

5 その他

音楽Ⅰ・Ⅱの学習内容をベースに音楽大学・芸術大学の入試に対応した専門的な内容を取り扱います。独奏や合奏、ソロや合唱、さまざまな活動を通して、音楽の良さや魅力を追求していきます。また、授業の中では音楽理論やソルフェージュも取り扱います。自分の成果や課題を常に明確化する力を身につけ、進路実現に向けてどのように取り組むのかについて主体的に考えながら授業にのぞんでほしいと思います。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	美術表現	単位数	2単位
		学年等	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
使用教科書 副教材等	高校生の美術1(日本文教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	アクリルガッシュによる色彩構成 蒔絵の制作 陶芸の制作	・提出作品 ・制作レポート	・提出作品 ・制作レポート	・鑑賞プリント ・振り返りシート
	評価点	100 点	100 点	100 点
後期	油彩画の制作 卒業制作	・提出作品 ・制作レポート	・提出作品 ・制作レポート	・鑑賞プリント ・振り返りシート
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	○アクリルガッシュによる色彩構成 ・鉛筆の使用法 ・モチーフの観察方法 ・画面構成について	16
	5	・形と陰影の捉え方について ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	
	6	○蒔絵の制作 ・日本伝統工芸作品の鑑賞 ・文様について ・蒔絵技法について	8
	7	・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	
	8	○陶芸制作	
	9	・陶芸作品の紹介 ・ろくろを用いた制作方法について ・アイディアスケッチ ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	12
後期	10	○油彩画制作 ・有名な油彩画の鑑賞 ・油彩道具の使用法について ・油彩表現について	14
	11	・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	
	12	卒業制作	
	1	・1学期からの学びで得た知識・技能を活かした作品制作	20
	2	・構想、使用材料の決定 ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	

5 その他

- 授業時間数が少なく、限られているので、集中して、能率よく作業をするようにしよう。
- 美術は手間です。こだわりを持って手間を惜しまないようにすれば、おのずから、実力が身に付いてきます。
- 常に次に行うことを考え、事前に準備をし、忘れ物をしないようにしよう。後片付けを確実に行ってください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	美術研究	単位数	3単位
		学年等	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
使用教科書 副教材等	高校生の美術1(日本文教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	デッサンの制作 美術史レポートの作成 静物着彩画の制作 デッサンの制作2 平面作品研究	・提出作品 ・提出レポート	・提出作品 ・提出レポート	・鑑賞プリント ・振り返りシート
	評価点	100 点	100 点	100 点
後期	課題研究 卒業制作	・提出作品	・提出作品	・鑑賞プリント ・振り返りシート
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	○デッサンの制作 ・鉛筆の使用法 ・モチーフの観察方法 ・画面構成について ・形と陰影の捉え方について ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	14
	5	○美術史レポートの制作 ・作家の選定と資料集め ・レポートの作成方法 ・情報収集の方法 ・レポート制作 ・レポート発表 ・美術史年表による学び	12
	6	○静物着彩画の制作 ・混色について ・アクリルガッシュの使用について ・写実表現の方法 ・アクリルガッシュを使用した多様な表現について ・完成作品の鑑賞と振り返り	15
	7	○デッサンの制作2 ・木炭の使用法 ・画面構成について ・木炭の特性を生かした表現について ・形と陰影の捉え方について ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	8
	8		
	9	○平面作品研究 ・各自設定した課題における平面作品の制作 ・画材の研究 画面構成について ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	5
後期	10	○課題研究 ・各自設定した課題における作品の制作 ・構想、使用材料の決定	20
	11	・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	
	12	卒業制作	
	1	・これまでの学びで得た知識・技能を活かした作品制作 ・構想、使用材料の決定	31
	2	・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	

5 その他

- 授業時間数が少なく、限られているので、集中して、能率よく作業をするようにしよう。
- 美術は手間です。こだわりを持って手間を惜しまないようにすれば、おのずから、実力が身に付いてきます。
- 常に次に行うことを考え、事前に準備をし、忘れ物をしないようにしよう。後片付けを確実に行ってください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	書道表現	単位数	2 単位
		学年等	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	書道Ⅰ、Ⅱで行ってきた古典を基にした表現方法や鑑賞の仕方を復習し、さらに高度な課題に取り組むことにより、広い視野で、深く思考することで、グローバル化する国際社会で主体的に生きる社会の形成者に必要な正解のない問題に粘り強く向かい合う資質・能力を育成する。 (1)中国の古典や日本の古筆に数多く触れることで、書の表現方法や形式、多様性などについて理解を深め、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2)歴史的な文章や身の回りの言葉を、書の伝統的な技法を基に表現し、協同的に鑑賞し探究することにより、書のよさや美しさを感じ、書の美を味わう感性を育成する。 (3)主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
使用教科書 副教材等	東京書籍 書道Ⅰ ペン習字の基礎

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けようとしている。	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えようとしている。	・主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしている。
評価点	100 点	100 点	100 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	毛筆の基礎と理論学習 硬筆の基礎と理論学習 漢字の書 ○篆書の基本と臨書 篆刻○自印制作 硬筆の応用○ハガキと掲示物の書き方 漢字仮名交じりの書① ○古典を活かした表現 ○紙面構成	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析
		50 点	50 点	50 点
後期	漢字仮名交じりの書② ○創作 屏風制作 鑑賞 毛筆による細字学習 ○筆書きサイン ○手紙文 細字創作 ○レジストラップ制作	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析
		50 点	50 点	50 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容		時数	
前期	4	毛筆の基礎と理論学習	○平仮名、片仮名、楷書、行書の基本的な点画や用筆法、運筆法を学び実技力をつける。	6	
	5	硬筆の基礎と理論学習		4	
	6	漢字の書	○篆書の基本と臨書 ○篆書の造形と用筆法について理解し、表現する。	6	
	7	篆刻	○篆書の特徴を活かし、大・小方形や不定形の落款印を制作する。	8	
	8	硬筆の応用	○ハガキの表書きと掲示物の書き方について学ぶ。	3	
	9	漢字仮名交じりの書①	○歴史的な文章や身の回りの言葉を、古典を活かした表現を利用し、漢字仮名交じりの文章を作品化することにより、漢字と 仮名の調和を考える。	4	
			○水墨画の基本な書き方に触れ、挿絵を含む紙面構成について学ぶ。	5	
後期	10	漢字仮名交じりの書②	○自分の好きな言葉を用い、作品制作を行う。	10	
		屏風制作	○伝統的な屏風の構造を理解し、手順に沿って屏風を制作する。	10	
	11	鑑賞	○相互鑑賞で他者の作品を味わい、作品鑑賞について理解を深める。	2	
	12				
	1	毛筆による細字学習	○様々な書体で自分の名前が書けるようになる。	2	
			○手紙文を毛筆で書く。	4	
	2	細字創作「レジストラップ」	○小筆を使用し、様々な書体で作品制作をすることにより、表現の技能を高める。	6	

5 その他

- 書の基礎基本を復習するとともに、自分の得意な・好きな文字群を選択し作品化する機会が増える。自信をもって表現できるよう芸術的表現力を高めて欲しい。
- 日常生活の中に積極的に書を取り入れ、書への関心を高めて欲しい。
- 中国や日本の書道史の学習においては、世界史や日本史の学習領域とも共通することが多いので注意する。
- 清書や添削作品、プリント類をファイルしておく。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	書道研究	単位数	3単位
		学年等	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	書道Ⅰ、Ⅱで培った古典を基にした表現力や鑑賞力を働かせ、さらに高度な課題に取り組むことにより、広い視野に立ち、深く思考することで、グローバル化する国際社会に主体的に生きる社会の形成者に必要な正解のない問題に粘り強く向かい合う資質・能力を育成する。 (1)中国の古典や日本の古筆に数多く触れることで、書の表現方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2)郷土の書や身の回りの書に触れ、書の伝統と文化の意味や価値を協同して探究し、歴史的な書の高さや美しさを感じ、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3)主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
使用教科書 副教材等	東京書籍 書道Ⅰ ペン習字の基礎

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けようとしている。	・書の高さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫するとともに、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えようとしている。	・主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしている。
評価点	100点	100点	100点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	漢字の書 ○篆書の学習 ○隷書の学習 ○草書の学習 ○楷書の学習 ○行書の学習 創作 表装「軸装」 鑑賞①	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析
		60点	60点	60点
後期	仮名の書 ○仮名の基本の復習 ○古筆の学習 ○大書仮名 ○仮名創作 一字書創作 鑑賞② 細字書「写経」	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析
		40点	40点	40点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	漢字の書 ○篆書の学習	4
		○隸書の学習	4
	5	○草書の学習	4
		○楷書の学習	4
	6	○行書の学習	13
	7	創作	12
	8		10
	9	表装「軸装」 鑑賞①	2
			1
後期	10	仮名の書 ○仮名の基本の復習	3
		○古筆の学習	6
	11	○大書仮名	6
		○仮名創作	10
	12	一字書創作	10
		鑑賞②	1
	1 2	細字書「写経」	15

5 その他

- 基礎基本を振り返りながら、学習内容を発展させ、作品制作の機会が増える。作品制作を通して芸術的表現力を高めて欲しい。
- 日常生活の中に積極的に書を取り入れ、書への関心を高めて欲しい。
- 中国や日本の書道史の学習においては、世界史や日本史の学習領域とも共通することが多いので注意する。
- 清書や添削作品、プリント類をファイルしておく。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	英語コミュニケーション III	単位数	4単位
		学年等	第3学年

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	FLEX ENGLISH COMMUNICATION III(増進堂) WORDBOX 英単語・熟語(美誠社) Mileage Reader 3(いっずな書店) 大学入学共通テストリスニング分野別 10min(エミル出版) Concerto No.1 [Basic](いっずな書店) 共通テスト英語リーディング対策 Reach 40(美誠社) Applause アブローズ Vol.4(美誠社)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価点	300 点	300 点	300 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	FLEX III (Skill 1-18, Lesson 1-4) Concerto No.1 (Introduction1- Section8)	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述 ・パフォーマンステスト	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述
	評価点	150 点	150 点	150 点
後期	FLEX III (Lesson 4-5) Concerto No.1 (Section8- Section15) 共通テスト英語リーディング 対策 Reach 40	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述 ・パフォーマンステスト	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述
	評価点	150 点	150 点	150 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	Skill 1-18: 英文を確実に読み解くために必要なスキルを学ぶ。	10
	5	Lesson 1: Potential Uses of Optical Illusions 錯視の効果と利用を理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 Concert No.1 (Introduction 1)	12
	6	Lesson 2: Expanding World Population 人口増加の歴史とそれによって生じる問題を理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 Concert No.1 (Introduction 2-3)	14
	7	第1回考査 Lesson 3: What Makes a Hit Song? ヒットソングに関する研究者の見解を理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 Concert No.1 (Section 1-3)	15
	8	Lesson 4: Visas for Life	6
	9	杉原千畝の功績を理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 Concert No.1 (Section 4-7)第2回考査	15
後期	10	Lesson 5: How Have Butterflies Survived? 蝶はいかに天敵から身を守ってきたかを理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 Concert No.1 (Section 8-10)	16
	11	共通テスト英語リーディング対策 Reach 40 1-8第3回考査	16
	12	共通テスト英語リーディング対策 Reach 40 9-16	10
	1	Concert No.1 (Section 11-13)	12
	2	Concert No.1 (Section 14-15)	14

5 その他

英語コミュニケーションⅢでは、2年次の英語コミュニケーションⅡで身につけた英語の4技能をさらに伸ばしていきます。取り組む英文のレベルも高くなり、より多くの語彙を習得していきます。加えて、パフォーマンステストを実施していく予定です。皆さんに英語を活用する力が少しでもつくようお互いに頑張ってください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	論理・表現 Ⅲ	単位数	2単位
		学年等	第3学年

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	Vision Quest English Logic and Expression Ⅲ(啓林館) Vision Quest 総合英語 3rd Edition(啓林館) 英文法・語法問題600 (いっずな書店) 英文法・語法問題600 Handbook (いっずな書店) Steady Steps to Writing(数研出版) 英文法・語法 Engage New Edition(いっずな書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価点	300	300	300

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	Lesson 1-5 新文法・語法問題 600 1-10 Steady Steps to Writing 1-6	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述 ・パフォーマンステスト	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述
	評価点	150	150	150
後期	Lesson 6-10 新文法・語法問題 600 11-20 Steady Steps to Writing 7-15	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述 ・パフォーマンステスト	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述
	評価点	150	150	150

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	Lesson 1 Friendship and improvement 相談メールを通して助言を述べる表現を学び、自分の考えを伝える。	4
	5	Lesson 2 Which is better, a paper or an electronic dictionary? 商店での商品説明を通して譲歩を述べる表現を学び、自分の考えを伝える。 英文法・語法問題600 1-3 Steady Steps to Writing 1-3	6
	6	Lesson 3 Can you change your personality? 新聞の悩み相談コラムを通して関係を述べる表現を学び、自分の考えを伝える。	8
		第1回考査	
	7	Lesson 4 How do you make decisions? 講義や議論を通して判断の根拠を述べる表現を学び、自分の考えを伝える。 英文法・語法問題600 4-6 Steady Steps to Writing 4-6	8
	8	Lesson 5 Online doctor consultations オンライン診療と通常診療の比較を通して、代替を述べる表現を学び、自分の考えを伝える。	2
	9	Lesson 6 Healthy lifestyle 友達同士の会話を通して結果を述べる表現を学び、自分の考えを伝える。 Lesson 7 What do you do after school? メール交換を通して物事の正負への影響を述べる表現を学び、自分の考えを伝える。 英文法・語法問題600 7-9 Steady Steps to Writing 7-9 第2回考査	8
後期	10	Lesson 8 Direct or indirect ways of communication オンライン講義を通して差異を述べる表現を学び、自分の考えを伝える。	8
	11	Lesson 9 Should we use social media? 記事を通して類似を述べる表現を学び、自分の考えを伝える。 Lesson 10 Are you a good user of social media? 講義を通して理由を述べる表現を学び、自分の考えを伝える。 英文法・語法問題600 10-12 Steady Steps to Writing 10-12 第3回考査	8
	12	英文法・語法問題600 13-14 Steady Steps to Writing 13-15	4
	1	英文法・語法問題600 15-17	6
	2	英文法・語法問題600 18-20	8

5 その他

英語で適切にコミュニケーションを取れるようになるためには、英語独特の文構造や文法の決まりを知っておくこと、また内容に関連した単語や表現を身につけることが必要です。ルールを知り、様々な表現方法を知った上で正確な発音を身につけようとする態度で何度も音読を繰り返すとともに、ある程度まとまりのある文章を書いたり即興でスピーチしたりする練習を繰り返しましょう。英語でのコミュニケーションにおいて最も大切なことは、間違いを恐れず積極的に話したり、書いたり、聞いたりする姿勢をもつことです。授業ではペアワークやグループワーク、発表活動など取り入れます。このような活動には、お互いを理解し高める気持ちで積極的に取り組みましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	英語研究	単位数	2単位
		学年等	第3学年 文科Ⅰ型選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	FLEX ENGLISH COMMUNICATION II (増進堂) 英語 4 技能型テストへのアプローチ①(数研出版) Viewpoint Standard(数研出版) Circuit 読解力・作文力のため重要表現(いいずな書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	FLEX Reading Skill 1-5 英語 4 技能型テスト 1-5 Viewpoint 1-4 Circuit 1-35	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述 ・パフォーマンステスト	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述
	評価点	100 点	100 点	100 点
後期	FLEX Reading Skill 6-9 英語 4 技能型テスト 6-7 Viewpoint 5-15 Circuit 36-55	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述 ・パフォーマンステスト	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	Reading Skill 1 (代名詞・言い換えに注意する) 英語 4 技能型テスト 1 Viewpoint 1 Circuit 1-7	4
	5	Reading Skill 2 (パラグラフ構成を意識して読む) 英語 4 技能型テスト 2 Viewpoint 2 Circuit 8-14	6
	6	Reading Skill 3 (例示・列挙・新情報の追加) 英語 4 技能型テスト 3 Viewpoint 3 Circuit 15-21第1回考査	8
	7	Reading Skill 4 (報告文を読む) 英語 4 技能型テスト 4 Circuit 22-29	8
	8	Reading Skill 5 (原因・理由・結果の表現に注意する)	2
	9	英語 4 技能型テスト 5 Viewpoint 4 Circuit 30-35	8
後期	10	Reading Skill 6 (時間・順序を表す言葉に注意する) 英語 4 技能型テスト 6 Viewpoint 5 Circuit 36-42	8
	11	Reading Skill 7 (新聞記事や広告を読む) 英語 4 技能型テスト 7 Viewpoint 6 Circuit 43-49第3回考査	8
	12	Viewpoint 7 Circuit 50-55	4
	1	Reading Skill 8 (逆接・対比の表現に注意する) Viewpoint 8-10	6
	2	Reading Skill 9 (推測して読む) Viewpoint 11-15	8

5 その他

英語研究では、2年次の英語コミュニケーションⅡで身につけた英語の4技能をさらに伸ばしていきます。取り組む英文のレベルも高くなり、より多くの語彙を習得していきます。皆さんに英語を活用する力が少しでもつくようお互いに頑張っていきましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭科・保育基礎	単位数	3単位
		学年等	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実際に子ども」と触れ合う学習活動などを通して、家庭での子育て、さらに保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	・教育図書株式会社「保育基礎」 ・自主教材:授業プリント等、遊具教材等

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。 子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学 期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
前 期	1章 子どもの保育 ① 保育の意義 ②保育の環境 ③保育の方法 2章 子どもの発達 ①子どもの発達の特性 ②乳幼児の発育と発達 3章 子どもの生活 ①子どもの健康と生活 ②子どもの食事 ③子どもの衣類と寝具 ④子どもの健康と安全 ★進路について考える。	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・ポートフォリオ ・確認テスト	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・ポートフォリオ ・発表	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・ポートフォリオ ・発表
	評価点	140 点	100 点	100 点
後 期	★進路について考える。 5章 子どもの文化 子どもの文化の意義と表現活動 4章 子どもの福祉 保育の課題を考える。 ① 保育にみる児童観 ② 児童福祉の理念と法規・制度(まとめ)	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・研究レポート	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・課題作品 ・グループ活動 ・研究発表	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・課題作品 ・グループ活動 ・研究発表
	評価点	60 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	1章 子どもの保育 ① 保育の意義 ②保育の環境 ③保育の方法 探究活動1 名札作り	8
	5	2章 子どもの発達 ・子どもが主体的に環境にはたらきかけ、発達していくために、保育者などが応答的にかわることが大切であることを理解する。 探究活動2 ポートフォリオ作り	11
	6	3章 子どもの生活 ・保育所保育指針などを取り上げながら養護の必要性・目的を理解し、発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。 探究活動3 オープンスペース訪問 探究活動4 ポートフォリオの発表 ①子どもの健康と生活 ②子どもの食事 ③子どもの衣類と寝具 ④子どもの健康と安全	8
	7	保育実習 ・実際に子どもとふれ合うことを通じて、子どもの保育の方法や発達、健康・安全、福祉、遊びについて理解を深める。 探究活動5 保育実習	9
	8 9	・進路について考える。 探究活動6 進路のための自分史作成 探究活動7 自分史発表	14 4
後期	10	5章 子どもの文化 ・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 ・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通じて理解する。 探究活動8 玩具作り	20
	11	・年齢に応じた子どもの発達を促すことに適した、具体的な遊び方を提案する。 ① 子どもの文化の意義 ② 子どもの文化を支える場 ③ 子どもと遊び ④ 子どもの表現活動 課題研究 探究活動9 課題レポート作成	4
	12 1 2	課題研究 探究活動10 課題レポート発表 4章 子どもの福祉 ① 保育にみる児童観 探究活動11 地域の施設へ贈呈する壁画作成 ② 児童福祉の理念と法規・制度(まとめ) ・障がいの有無や貧困・虐待、国籍の違いなど、多様な事情・背景をもつ家庭や子どもたちが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。	20 7

5 その他

○子ども園や保育所、子育て支援施設での実習、児童文化財の制作など、実験・実習を中心に体験的な学習を多く取り入れています。このような人とかわかる体験を通して、単に幼い子どもの保育に限らず、「自分らしい生き方」を見つけてほしいと願っています。

○授業だけではなく、新聞記事やニュース、保育に関する本などから現在の保育の問題点を見出し、課題研究へとつなげ、将来保育に関わる者として今後の課題を見つけてください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭科・フードデザイン	単位数	3 単位
		学年等	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	家庭の生活にかかわる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	・教育図書株式会社「フードデザイン」 ・2023 最新 生活ハンドブック 資料&成分表」(第一学習社) ・自主教材:授業プリント等

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を見出し思考を深め、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	食生活に関する諸問題に関心を持ち自ら学び、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 健康と食生活 第3章 食品の選択と取り扱い 第2章 栄養素と食品 ホームプロジェクトをやってみよう 第4章 調理してみよう 第3章 食品の選択と取り扱い	・ワークシート(活動) ・課題作品 ・学習プリント ・実技テスト ・確認テスト	・ワークシート(活動) ・学習プリント ・課題作品 ・確認テスト	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・課題レポート
	評価点	130 点	110 点	90 点
後期	第5章 各国料理とコーディネート 第6章 食育と食育推進活動 ホームプロジェクトをやってみよう	・ワークシート(活動) ・学習プリント ・確認テスト ・作品、レポート ・発表	・ワークシート(活動) ・学習プリント ・課題作品 ・レポート ・発表	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・発表
	評価点	70 点	90 点	110 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	第1章 健康と食生活 1 食事の意義と役割 2 食を取り巻く現状	2
	5	第3章 食品の選択と取り扱い 2 食品の衛生と安全 探究活動1 標語作り	2
		第2章 栄養素と食品 1 栄養素と消化・吸収 2 各栄養素の働き 3 食品とその特徴	
	6	探究活動2 食品の特徴を生かした調理実習	8
		探究活動3 小麦粉を利用したオリジナル料理の考案と調理実習	10
		探究活動4 オリジナル料理紹介ポスター作成・コンテスト応募	5
		探究活動5 実技テスト・確認テスト	
	7	第2章 栄養素と食品 4 何をどれだけ食べる ライフステージと栄養 ・対象者に合わせ栄養、嗜好、費用、季節感を考慮した献立を立て方について理解を深める。	5
	8	探究活動6 家族の献立作成と調理実習・コンテスト応募	8
		・ホームプロジェクトをやってみよう 探究活動7 夏課題(課題研究の情報収集)	1
後期	9	第3章 食品の選択と取り扱い 1 食品選択のコツ	4
	10	第4章 調理してみよう 2 調理操作と調理器具 探究活動8 魚をさばく調理実習	3
		探究活動9 実技テスト・確認テスト	3
		探究活動10 外部講師による調理実習	3
	10	第5章 各国料理とコーディネート 1 料理の様式 (日本料理・西洋料理・中国料理) 2 テーブルコーディネート 探究活動11 各国料理の特徴やマナーを意識した調理実習	12
	11	第6章 食育と食育推進活動 ・ホームプロジェクトをやってみよう	6
	12	探究活動12 課題研究:課題解決実験・調理実習・レポート等の作成	6
	1	探究活動13 課題研究:発表準備(スライド作成)・発表	12
	2	第6章 食育と食育推進活動 探究活動14 行事食、SDGsを意識した調理実習	5
		探究活動15 卒業献立料理実習・チラシ作成・発表	10

5 その他

○授業時間を大切に、授業で使ったプリント類は毎時間きちんと整理して、学習した項目を確認しましょう。

○単元ごとに実習や実験等の体験学習や探究活動を行います。時間毎の目標に到達できるように、自分の考えをしっかりと持った上で、ペア学習やグループ学習を通して積極的に学びを深めてください。

○料理コンテストの応募や「食」に関する課題研究など、今までの履修内容を発展させたオリジナル料理や献立を考案し、実験、実習してもらいます。日頃から自宅で調理をするなど、食材や調理器具にふれる機会を増やしておいてください。

○1・2年次とは異なり、多種多様な食材を扱います。常に衛生・安全に留意することが大切です。

○授業だけでなく、「食」や「健康」に関するニュースにアンテナを張り巡らせ、自分が深く追求したい課題を見つけ、将来の進路や生活を豊かにする提案ができるようにしましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	情報Ⅰ 演習	単位数	1
		学年等	第3学年 文型選択者・理型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1年次に履修・学習した「情報Ⅰ」についての考え方を活かし、知識の習得と技能の習熟を図り、情報分野において表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。 (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め知識を習得するとともに、個人が果たす役割や責任等について、情報社会と人との関わりについての理解と併せて身に付ける。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、新たな意味を見いだす力を養うとともに、問題の発見・解決に向けて各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、活用する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、情報と情報技術を活用することで、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
使用教科書 副教材等	数研出版「情報Ⅰ Next」・実教出版「基礎からはじめる情報リテラシー」・実教出版「Excel でまなぶプログラミング」・数研出版「情報Ⅰ 徹底演習」

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	効果的なコミュニケーションを実現するために必要な情報デザイン、コンピュータを活用するために必要な情報が処理される仕組み、データを活用するために必要な収集、整理、分析の方法、プログラム、モデル化とシミュレーション、ネットワーク、データベースなどについて理解している。	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、コミュニケーションの手段、コンピュータ、ネットワーク、データ及びデータベースなど、情報社会における問題の発見・解決に向けての判断力を養っている。	情報と情報技術を適切に活用することで、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養っている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1編 情報社会と問題解決 第1章 情報とメディア 第2章 情報社会における法とセキュリティ 第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第1章 情報のデジタル表現 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 第3章 情報デザイン 第4章 プレゼンテーション	・定期考査 ・小テスト ・授業中の行動観察 ・課題等	・定期考査 ・小テスト ・授業中の行動観察 ・課題等	・小テスト ・授業中の行動観察 ・課題等
	評価点	100点	100点	100点
後期	第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ 第2章 プログラミング 第3章 モデル化とシミュレーション 第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ 第2章 データベース、第3章 データ分析	・小テスト ・授業中の行動観察 ・課題等	・小テスト ・授業中の行動観察 ・課題等	・小テスト ・授業中の行動観察 ・課題等

	評価点	100点	100点	100点
--	-----	------	------	------

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	第1編 情報社会と問題解決 第1章 情報とメディア	8
	5	第2章 情報社会における法とセキュリティ	
	6	第3章 情報技術が社会に及ぼす影響	
		第2編 コミュニケーションと情報デザイン	10
	7	第1章 情報のデジタル表現	
	8	第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴	
	9	第3章 情報デザイン	
		第4章 プレゼンテーション	
		第2回考査	
後期	10	第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ	9
	11	第2章 プログラミング	
	12	第3章 モデル化とシミュレーション	
		第3回考査	8
		第4編 情報通信ネットワークとデータの活用	
	1	第1章 ネットワークのしくみ	
	2	第2章 データベース	
	3	第3章 データ分析	

5 その他

まず、問題に興味・関心を抱き、正確に読み解く力を身につけてください。また、授業で扱ったような問題を解けるようになるだけでなく、初めて見るような問題であっても、柔軟に考えて取り組み解決できる思考力を身につける。
※そのためには解き直しをするなど、繰り返し問題を解くことが必要です。

令和7年度 総合的な探究の時間 年間指導計画

広島市立美鈴が丘高等学校 全日制課程

実施学年(3)年

学校において定める 目 標		3年間の系統的な探究活動を通じて、変化の激しい社会の中に課題を見いだし、その課題について「自分ごと」化して自ら学び、思考・判断し、問題をよりよく解決しようとする資質や能力を育てる。 (1)教科横断的な探究の「型」を学ぶことを通じて、課題の発見と、解決に必要な知識および技能を身につける。 (2)社会と自分とのつながりの中から課題を発見し、解決のプロセスを思考・判断したうえで、その分析を他者にわかりやすく伝えるための表現力を身につける。 (3)他者との協働的な活動を通じて、主体的に学ぼうとする姿勢やよりよい社会を実現しようとする態度や人間性を身につける。
内 容	探 究 課 題	・個人探究 ・マイヒストリープロジェクト
	育成を目指す 具 体 的 な 資 質 ・ 能 力	1. 自己の将来を見すえてキャリア意識を育むとともに、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に考える能力 2. 自らの興味関心に応じて情報を多角的に収集するとともに、他者と協働して検証、分析する能力 3. 自己の考えをまとめ、効果的な手段を用いて相手に正しく伝える能力 4. 協働的な活動を通じて、異なる意見や他者の考えを受け入れながら昇華させるコミュニケーション能力
付 与 す る 単 位 数		1 単位
授業時数の配当方法		原則週1回に授業を固定し、1年間を通じて均等に時間を配分する。 フィールドワークに要した時間は総合的な探究の時間に加える。
学 習 活 動		個人探究を中核に据え、情報収集と資料作成、発表を組み合わせる学習活動を行う。
教 材 の 使 用 等		校内で作成したワークシートやタブレット端末等を用いる。
指導方法・指導体制		・指導原案は教育研究部が作成し、そのうえで担任・副担任を問わず学年教員で指導にあたる。 ・教育研究部のほか、教務部、進路指導部などの関係部署で連携して指導にあたる。
評価規準・評価方法		・個人、グループで作成した成果物を保存し、評価する。 ・学習に対する振り返りを通じて、学習過程における能力や態度の伸長を評価する。

単元	月	探究の過程	学習内容・学習活動	時数	学習活動(場所)	各教科・特別活動等との関連・指導上の留意点等
地域の問題解決探究	4月	課題の設定 情報収集 整理・分析	○フィールドワーク等を積極的に実施して情報を収集し、実験や検証を繰り返し、情報を適切に整理し分析する。	3	個人 (各教室)	○フィールドワーク等を積極的に実施して情報を収集し、実験や検証を繰り返し、情報を適切に整理し分析させる。
	5月			3		
	6月	発表 まとめ	○収集した情報を整理し、成果物としてまとめ発表する。	4		○クラス内発表で選ばれたファイナリストが探究発表会で全学年に向けて発表する。
	7月			3		
マイヒストリープロジェクト	8月	課題の設定 情報収集 整理・分析 まとめ	○高校3年間の探究活動を振り返り、自分自身に対する理解を深め、自分自身をテーマとした発表資料を作成する(マイヒストリープロジェクト)。 ○興味関心に基づく探究活動、地域探究活動を継続し、探究抄録としてまとめる。	1	個人 (各教室)	○ジョハリの窓やマインドマップといった思考ツールを用いて、自己理解を深めさせる。 ○探究抄録はプリントアウトし、冊子にまとめて成果物として蓄積していく。
	9月			4		
	10月			4		
	11月			4		
	12月			3		
	1月			3		
	2・3月			3		
備考		○全員にファイルを持たせ、全ての資料を保管させるとともに、クラウド上に活動記録を残させる。 ○「ふりかえり」の時間を設定し、探究活動の記録を生徒自身にとらせる。 ○1時間は平和教育プログラムとして、平和探究をおこなう。				